「愛の血液助け合い運動」月間（7/1～7/31）に因んで

沖縄県赤十字血液センター　宮国　毅

「愛の血液助け合い運動」月間の趣意

今年も7月1日から31日までの1ヶ月間、全国一斉に「愛の血液助け合い運動」が展開されます。このキャンペーンは、「血漿分画製剤を含むすべての血液製剤」を国民の献血によって確保する体制を早期に確立するため、厚生労働省・都道府県および日本赤十字社が主催し、県医師会や歯科医師会、マスメディア・報道機関等多くの組織や団体の協力のもとで展開されます。

かつては子沢山の家庭が多かった県内でも出生率は低下の一途を辿り、一世帯あたりの子供の数は約1.7人と少子化の傾向は顕著であります。それに伴って20歳代30歳代の献血者数は年々低下しています。加えて昨年2月に、国内で初めて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病患者の発生が確認されたことを受け、予防的観点に立った献血の制限が実施されています。これに伴い献血者のさらなる減少が予想されることから、今後一層の献血思想の普及啓発をはかることが目的です。すなわち広く県民各層の間に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に今後さらなる推進が必要な成分献血および400ml献血への協力をお願いすること。また血液製剤のユーザーである医療機関に対しては血漿製剤（特に新鮮凍結血漿：FFP）の適正使用への協力を呼びかけていくことであります。

キャンペーン期間中の活動内容（表1参照）

キャンペーンのパーソナリティは歌手の氷川きよしさんで、ポスターやリーフレット、さらには新聞やテレビなどのマスメディアにも登場し、国民に献血を呼びかけます。また運動期間中には表1に示しますように、県内でも各種イベントが予定されています。

まず本運動のスタートにあたり、7月4日（火）の午後4時から、パレット久茂地イベント広場においてキャンペーンを実施します。これには行政側から県と那覇市、ボランティア団体として赤十字奉仕団、学生献血推進協議会、ライオンズクラブなどが参加し、これにミス沖縄のお二人が花を添えます。セレモニー終了後には、参加者全員で通行人に献血を呼びかけると共に、ビラ配布を行います。

7月中旬には、県と日赤関係者で編成された献血キャラバン隊が、二日間にわたり中部福祉保健所管内の市町村（役場）を訪問します。そこで、県民に献血を呼びかける知事のメッセージが読み上げられ、隊旗とともに各市町村の首長に付託されます。また運動期間中には県庁1階の県民ホールで、献血関連パネルの展示会や献血が予定されています。

表１.「愛の献血助け合い運動」，主なるイベントと街頭献血

イベント	実施月日	実施場所	備　考
県知事メッセージ	7月1日（土）	月間行事も合わせて地元２紙に掲載	琉球新報，沖縄タイムス
街頭でのキャンペーンおよびビラ配布	7月4日（火） 16：00～17：00	パレット久茂地イベント広場	ミス沖縄，県及び市職員，各種ボランティア団体
市町村献血キャラバン	7月26日（水） 27日（木）	中部福祉保健所管内の市町村（役場）	市町村を巡回し知事メッセージを伝達する。
献血教室	調整中	調整中	血液の不思議，献血した血液のつかわれ方など
献血関係パネル展示会	7月18日（火） ～21日（金）	県庁１階県民ホール	
街頭献血	7月2日，9日，16日，23日，30日	琉球ジャスコ北谷店 イオン具志川ショッピングセンター	毎週日曜日
県庁職員による献血	7月18日（火） ～21日（金）	県庁１階県民ホール	パネル展示と同時に実施
マスメディアを通じての広報	7月1日～7月31日	県民サロン，ラジオ県民室，ちゅらしま沖縄など	新聞・ラジオ・テレビによる広報

市町村献血キャラバン風景

血液事業を支えているボランティアたち

輸血用血液製剤や血漿分画製剤（輸入品の場合は別として）は、全て代償を求めない人たちの善意の贈り物です。善意の人たちとは、後述する如く、献血者のほか、血液事業の支援にことのほか熱心な奉仕団体や事業所、保健所から指名されたボランティアの方々、赤十字奉仕団員などです。全ての血液製剤はこうした多くの奉仕活動の成果としてなされた献血血液から製造されています。以下そのボランティアのプロフィールを簡単に紹介します。

1）一般献血者

県内の献血者の職業別内訳としては、公務員の比率が他県に比べて高いことが特徴です。そのほか企業・団体の職員、大学専門学校生、主婦、高校生などとなっています。特定の血液型の成分製剤（特に血小板など）が不足の場合は、直接電話などで献血者と連絡を取って協力を依頼し、久茂地の献血ルームまでご足労願っております。献血現場までの往復の所要時間を除いても、全血献血（MAP）には申し込み書類の記入や採血・休憩を含め20分以上、濃厚血小板（PC）などの成分献血の場合は1時間以上を要します。

2）奉仕団体・企業（ライオンズクラブ、大興建設とその関連企業、生コンクリート業界など）

ライオンズクラブは、アメリカで生まれた奉仕団体で、世界中に支部を持っています。いろいろな奉仕活動を行っていますが、とくに病める人への奉仕活動として三献運動に力を入れてきました。三献とは献血、献腎、献眼のことですが、中でも一貫して行われてきた献血の実践活動と地域社会への普及啓蒙活動は特筆されます。また大興建設（嘉手納町）や沖縄県生コンクリート協同組合（那覇市港町）のように、関連する事業体の総力を挙げて献血運動に取り組んでいる事業所もあります。

3）赤十字奉仕団

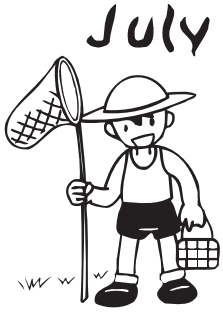
赤十字の基本原則（人道、公平、奉仕など7

原則）に共鳴するボランティアの方たちの団体です。県内で約1,100人の方（家庭の主婦が多い）が献血推進活動を行っています。具体的には、移動採血バスの立ち寄る献血現場を訪れ、地域住民への献血の呼びかけ、献血終了者への接遇などを行っています。

4）献血推進員

地域（保健所管轄区域）ごとに1人の方が任命されています。学校校長経験者など地方の名士が多く、献血思想の啓発と普及のため、新聞などへの献血啓発記事の寄稿や広報などを行うほか、地域の企業や団体・専門学校等を訪問し、献血の推進に取り組んでいます。

以上のように、各方面の多くの方の奉仕活動によって、献血（血液事業）が成り立っています。

県内医療現場では、新鮮凍結血漿FFPの使用の適正化が求められる

県内の赤血球製剤と血小板製剤の使用量は、全国的に見て平均的水準にありますが、新鮮凍結血漿（FFP）の使用量は依然として高く、人口千人あたりの血漿の使用量は、全国で多い方から第三位に位置します。今後は輸血医療を日常的に行っている医療機関においては、とくにFFPの使用（凝固因子の補充のみが適応です）について、適応外の使用の内容をチェックできる管理体制（輸血管理室の設置と責任医師の任命）の構築が望まれます。国内自給を達成するためには、若者への献血の呼びかけと同時に、医療現場でのFFP使用の適正化（使用量の削減）が大変重要ですので、医療機関のご協力を宜しくお願いいたします。